

2010年10月5日発行

Vol.52

ろ ん ど

長崎県音楽連盟事務局

〒850-0056 長崎市恵美須町4-5

NBC第3ビル2F

Tel.&Fax095-820-1081

ホームページアドレス <http://www.n-rond.jp>メールアドレス nma@onyx.dti.ne.jp

岩崎弥太郎像の前で（2010年9月24日、長崎歴史文化博物館）

ナイト・ミュージアム

音楽祭2年目を迎えるときに、長崎にこだわったコンサートが何か創りだせないかと企画委員会で意見を出し合い、誕生したのが「長崎の唄、長崎の音」である。長崎の様々な文化シーンで活躍されている方々に制作委員として加わっていただいた。放送業界の大ベテランの総監督、経験豊富な舞台監督、各種イベントを手掛けてきたプロデューサー、街おこしの仕掛け人、タレント発掘が趣味という行政マンなど、多彩な顔ぶれが集まった。さて、制作委員会の委員長はどなたに？という話になり、全員一致でお名前が挙がったのが、長崎歴史文化博物館の大堀哲館長だった。幸いにも、快く引き受けて下さり、唄・音制作委員会は、力強いプロデュース集団になった。

大堀館長の故郷は会津。「私の故郷にも祭りや行事があり、その時の町や村はとても元気だったことが懐かしく思い出される」と小冊子に書かれている。さらに、

イタリアに住んでいた頃のこともご紹介され、中部イタリアの祭り、ヴェネチアの祭りに話題が広がる。外国の祭りと長崎の祭りを比較される辺りが、博物館の館長さんたる所以だろうか。

大堀館長、実は歌もお得意で、長崎の某男声合唱団にも所属されている。ただ、最近はお忙しくて、歌う機会が無いそうである。来年の唄・音では、熟年ムードコーラスグループの提案をしたい。グループ名は、「大堀哲とホットファイブ」。ながさき音楽祭に対しても、熱い思いをお持ちの制作委員会メンバーで結成する。昼間は、龍馬展でにぎわっている博物館が閉館し、諏訪の森に静かな時が流れる頃のナイト・ミュージアム。エントランスに置かれている中古グランドピアノを引っ張り出し、こっそり発声練習をしている眼鏡の紳士がいたら、多分それは博物館館長である。

（文：堀内伊吹 写真：江口満）